

平成29年度 事業報告

社会福祉法人 恵徳会

平成 29 年度の主な事業報告

社会福祉法人恵徳会

社会福祉事業

[社会福祉法人 恵徳会]

平成 29 年度施行の社会福祉法人制度改革に係る法人運営は、各種研修会等に参加することで対応できたと思われる。義務化された社会貢献活動は、福岡県社会福祉法人経営者協議会が実施している「ふくおかライフレスキュー事業」に金銭的な支援及び人材の派遣等に取り組んできた。

通常の運営については、前回の介護報酬マイナス改定・民間企業の参入等により利用者確保が厳しい状況であったが、対応する打開策を見出すことができず、今後の課題となっている。

次年度の介護報酬は若干のプラス改定(0.54%)ではあるが、細かな加算に対応すべくサービス提供体制の整備が求められるなど、今後も厳しい状況は続くため、継続した効率的な運営に努めなければならない。

次に、法人として重点目標に掲げた項目について、次のとおり報告する。

1、社会福祉法人制度改革に沿った対応

経営組織のガバナンスの強化については、法人制度改革の対応や人材確保に追われ、体制を整備することまではできなかった。30年度は、社会福祉法人としてのガバナンスの強化や地域貢献の実践等制度改革に則した対応に努めていく。

地域貢献(生活困窮者支援事業)については、ふくおかライフレスキュー事業として、生活困窮者に対し物資の提供を行った。また、各拠点において地域清掃活動や地域の行事等に積極的に参加することで、地域のニーズや課題を拾い上げることに繋げている。また、台風等の天候不順の折りに社会福祉協議会を通じての独居者の避難先としての呼びかけを継続して行っているが、今年度の利用はなかった。

2、各事業所の実績増

法人医療部門充実については、西区の高齢者福祉施設なの国において、医療部門の併設を検討していたが、隣接地に医療モール計画が持ち上がったため、現在状況をみているところではあるが、医療部門の充実については、今後も法人事業として引き続き検討を行う。

3、人材確保及び離職防止について

退職職員の補充及び、新職員の教育及び研修に追われ、現職のフォローが十分にできていなかった。また、人材育成として、キャリアアップや求められる職員像を明確にし、目標達成に向けた研修体制を確立。採用時には集中的に基礎研修を行うとともに、法人研修委員会による

中堅職員に対してのキャリアアップ研修を前期・後期と実施し、職員のスキルアップ及びモチベーションアップに繋げることができた。また、来年度はEPAによる人材(フィリピン人)を法人で採用することが決定している。

4 諸 会 議

(1) 理事会

- ・ 第1回 平成29年6月13日(火)
議案 平成28年度 予算超過・事業報告・決算状況・社会福祉充実残額の算定結果について
- ・ 第2回 平成29年6月27日(火)
議案 理事長選任・業務執行理事選任について
- ・ 第3回 平成29年9月26日(火)
議案 平成29年度第1四半期報告・定款一部改正・役員報酬規程一部改正・就業規則等諸規定一部改正・苦情報告第三者選任・当座貸越契約・第2回評議員会開催について
- ・ 第4回 平成29年12月21日(木)
議案 恵徳会本部及びヘルパーステーションふたば積立金取崩・平成29年度第1次補正予算(案)・運営規程一部変更について
- ・ 第5回 平成30年3月27日(火)
議案 平成29年度第2次補正予算(案)・運営費借入・積立金取崩・平成30年度事業計画(案)・平成30年度予算(案)・運営規程一部改正・就業規則一部改正について

(2) 評議員会

- ・ 第1回 平成29年6月27日(火)
議案 平成28年度 予算超過・決算状況・社会福祉充実残額の算定結果・理事選任・監事選任について

(3) 監事監査

平成29年6月1日

(4) 運営会議

毎月1回実施

(5) 幹部職員会議

毎月1回実施

(6) 各種委員会

在宅推進委員会(平成29年6月・9月・11月・平成30年2月)

広報委員会(平成29年12月)

研修委員会(毎月1回開催)

(7) 公認会計士による外部監査

平成29年5月23日~25日

平成29年8月28日~29日

平成29年11月21日~22日

平成30年2月13日~15日

[特別養護老人ホーム恵昭園・短期入所]

平成 29 年度の特別養護老人ホーム恵昭園の事業計画において、安定した利用実績を維持することや、介護サービスの充実、専門的知識・技術の向上。また、恵昭園短期入所生活介護においては、安心と信頼を得るサービスの提供や、職員資質の向上を事業目標として掲げ取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、安定した利用実績の確保

①特別養護老人ホーム恵昭園では、入退所において円滑な調整を行ってきたが、年間の平均稼働率が 45 名であり、特に 6 月～8 月については入所を進めることができなかった。更にはスムーズな入所に繋げることができなかった事に加え、年間を通して退所者が多かったことが、結果的に稼働率の低下を招いてしまった。次年度は、長期の空床期間を作らないよう、入所者確保に向けた早期の対応行う。

恵昭園短期入所者生活介護においては、4 月から 7 月にかけて、平均利用者が 7～8 名と当初の目標数値を大幅に下回っていたが、8 月～10 月は新規利用者の獲得及び長期間での利用者が増えたことにより、平均利用率 10 名前後で維持ができた。また、新規利用の方について事前面談を密に行い、ご利用者やご家族との信頼関係の構築に努めた。また、初回利用後に不安な点や不都合がなかったか等の確認を行ったことで、再利用や定期利用に繋がったケースもあった。

②今年度も在宅部署や地域・在宅サービス提供機関、及び医療機関との情報交換や連携を行い、特養に於いては、新規利用者の紹介先として病院 5 名・他施設より 4 名・在宅から 5 名であった。

③施設見学や各種相談等について柔軟に対応し、地域の中で信頼される事業所としての関係作りを行ってきたが、一方で地域との関係性という点においては、具体的な取り組みの実施にまでは至らなかった。

2、サービスの充実

①看介護の長を中心として事前面接で作成した情報を随時多職種に提供し入所の可否について意見を求めたほか、必要時には看介護職員と共に入所予定者への面接を行った。また、特別な対応が必要な方に関しては、施設内の写真を元に先方よりアドバイスを頂くことで、可能な限り入所前の環境近い対応ができるよう努めた。更には、利用者本人やご家族の入所時の意向を随時介護支援専門員へ伝達するほか、ご本人やご家族の意向について、カンファレンスを通じて発信することで、個別ケアが実施できた。

②リスクマネジメントの徹底として利用期間中の様子を記録に残し、随時状態観察を行った。また、リスクに繋がる記録に関しては個人記録以外の連絡ノートを活用し、情報の周知を図った。また、カンファレンスを開催し、職種間の共通理解に基づいたサービス提供に努めた。一方、医療や介護度の重度化に伴い、より高い知識や技術が必要となるが、施設全体の底上げに繋がるような取り組みを率先して行うことはできなかった。しかし、リスクに関する危機管理意識を持ち、リスクに関連した報告書や有事の際の現場検証を通じて、予防や再発防止に努め、サービスの向上に繋がれた。

③介護サービスの質の向上として「利用者の希望を尊重した入浴」を目的に入浴サービスを

提供する。「個別対応の排泄ケア」を目的に排泄サービスを提供する。「安心して楽しみのある食事」を目的に食事サービスを提供する。「接遇マナー向上」への取り組みを強化する。「安全・清潔・快適な生活空間作り」を目的に環境整備を行う。「アクティビティの充実」を目的に行事・レクリエーション活動を行う。「褥瘡ゼロ」を実践する。「感染症（インフルエンザ・ノロウイルス・食中毒等）予防の徹底」を目標として日々の介護サービスの充実に努めた。

3、専門的知識・技術の向上

日々の業務の中で分からない制度や言葉については、その都度調べたが、探求心や向上心を持つゆとりがなかった。また、月に一度の内部研修では、体交枕の使いかたなど、日々の業務の中でも直ぐに活用できる技術を知ることができた。その他として、施設外研修では、近隣の病院主催の口腔ケアに関する研修への参加や各種セミナーへの参加を通して、他県の現状や他社会福祉法人の取り組みを知ることができた。

4、地域福祉への貢献

ライフレスキュー事業についての理解を深め、積極的に支援活動に参加するため、月に1回の定例連絡会に参加し課題の把握に努めた。更にはライフレスキュー事業を通じて地域貢献の必要性や重要性を学ぶことができたが、具体的な実践にまでは至らなかった。今後法人としての進め方を考察していきたい。

5、感染防止・衛生管理

厨房職員への毎月の検便検査項目にノロウイルス検査を追加し、日ごろからの体調管理・衛生管理を強化した。また、循環風呂浴槽掃除・レジオネラ菌検査。受水槽清掃・クリプトスポリジウム検査・厨房を含む全館消毒を実施した。

[アネックス恵昭園]

平成29年度のアネックス恵昭園の事業計画において、安定した利用実績の維持や、サービスの充実、入居者の1日の暮らしに焦点を合わせた介護サービスの提供。職員の資質向上を事業目標として掲げ取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、安定した利用実績の確保

①アネックス恵昭園において、今年度入退院は少なかったが、入院期間の長期化（入院中の退居）となったケースが殆どであり、加えて入居申込者が少なかったこともあり、年間を通して平均18名のベッド稼働率であった。新規で入居申込みがあった際はできる限り早急に入居に結びつけるよう努めたが、安定した利用実績には至らなかった。また、新入居時においては、在宅部署や地域包括支援センター等と入居者の情報収集について連携を深めたが、入居確保の視点での他のサービス提供機関や居宅介護支援事業所等への営業活動は消極的な結果となっており、30年度への課題となった。

2、サービスの充実

①新入居受け入れの際は、余裕をもって面接及びアセスメントを実施することができ、併せて入居時より24時間シートの作成ができた。また24時間シートに関しては、定期的な見直しや再作成は定着できた。

②今年度は年間で35件の事故報告があった。転倒が最多の16件となったが、内1件は骨折入院となったケースであった。また、同一入居者の再発事故も数件発生しており、リスク意識の向上が必要不可欠であると思われる。しかしながら入居者の重度化が進み、リスク意識だけではリスク予防・回避ができない部分もある。そのため限られた人員の中で他職種協働でのリスク予防に努めたい。

③タブレット端末を活用することで、従前よりも情報の収集・発信・共有することができた。また、タブレットの使用が他職種（リハビリ・管理栄養士）にも定着したことで、今後も継続的に端末を活用し、早期の課題発見及び解決に結び付けたい。

3、知識・技術の向上

①事業所・法人主催の研修への参加やテキスト購読による自己研鑽に努めた。また、法人事例発表会では、「タブレット端末を活用した記録管理」について事例報告を行った。今後は個人の知識に留まらず、会議や施設内研修を通して、フィードバックに努めたい。

4、防災対策

①併設施設との合同訓練（避難・消火・通報訓練）を2回実施した。

1回目・・・平成29年9月27日（水）（夜間想定訓練）

2回目・・・平成30年3月16日（金）（昼間想定訓練）

②防災設備点検

1回目・・・平成29年6月6日・7日（粕屋南部消防署報告）

2回目・・・平成29年12月4日・5日（粕屋南部消防署報告）

③防火対象物点検・平成29年6月7日（粕屋南部消防署報告）

③受電設備点検

毎月1回の点検及び年1回の法令点検を実施。

【利用者状況】

①入・退所（従来型）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所数	1	3	0	0	0	1	1	0	3	1	2	2	14
退所数	1	1	0	2	2	1	0	3	2	1	0	0	13
月末在所	46	47	48	46	41	43	42	42	43	43	45	46	
稼働率	91.7	90.8	94.4	92.8	89.5	85.3	86.6	83.7	85.7	85.2	88.1	91.5	88.8

①入・退所（ユニット型）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所数	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4
退所数	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
月末在所	19	17	17	18	18	19	19	18	18	17	19	19	18.1
稼働率	94	94	86	89	90	93	95	92	86	85	88	95	90

①短期入所（従来型）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用（延）	216	278	259	256	318	301	310	297	305	261	309	227	3337
平均数	7.2	8.9	8.6	8.2	10.1	10	10	9.9	9.7	8.4	11	7.3	9.1
稼働率	45	56	53	51	63	62	62	61	60	52	68	45	57

[恵昭園デイサービスセンター]

平成29年度の恵昭園デイサービスの事業計画において、安定した利用実績の確保や、安心して地域で生活できるサービスの提供。また、サービスの質の向上・リスクマネジメントの徹底を目標に掲げ実現に向けて取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、安定した利用者実績の確保

体験利用者の受入れを迅速に行うなかで、個別に関わりを持つことで安心してサービスが利用できるよう配慮を行った。また、年間で介護・予防の体験利用者9名を受入れ、本利用へ繋がり利用者を確保することができた。新規利用者については、年間で14名を受入れた。今後も新規受入れを積極的に行い、実績の維持及び向上を目指したい。更に短期入所との連携及び情報共有強化のため、連携ノートを活用し情報伝達等を行った。今後も連携を図り利用者・家族との信頼関係を構築するなかで利用継続に繋げていくところである。また、ショートステイの利用者も多く、職員への情報交換を行い、一貫したサービスを実施する事ができた。今後も家族及び利用者の情報共有に努め、不安なくサービスが受けられるように連携強化を図っていく。

2、安心して地域で生活できるサービスの提供

利用者及び家族との日々の関わりのなかで、意見などを確認し迅速に対応し、通所介護計画に基づき、サービスの提供を行った。今後も毎月のモニタリングでの評価や日々の関わりのなかで意見を伺いサービスに繋げていく。また、ご自宅での状況把握に努め、担当ケアマネジャーを中心に他スタッフと協同するなかで、個別での課題に対応することができたが、細かな課題を見つけ出すことは困難であった。今後も在宅生活での困りごとを把握し、在宅生活の維持に努めていきたい。

3、サービスの質の向上

毎月の通所会議のなかで、接遇や送迎時の適切な対応について改善点の確認は実施できたが、職員の自己評価については定期的に実施することはできなかった。今後は、基本を振り返り法人理念を念頭にサービス提供者として向上をしていく。

4、リスクマネジメントの徹底

朝のミーティング時に利用者の日々の身体状況や利用中の変化や対応について、随時業務内容を検討し事故防止に努めた。また、日々の業務終了時にミーティングを開催し、ヒヤリ報告や気づいた点を職員間で伝達することで、統一したケアを目指していく。事故発生毎にカンファレンスを開催する中で事故分析・対応策を検討することができたが、その後の定期的な評価や見直しに繋げることができなかった。今後は通所会議の中で議題の一つとして改善指示書の

評価を行い事故予防に努める。また、感染症に関してはインフルエンザやノロウイルスの流行は無かったが、季節に応じた対策を行ってきた。29年度も感染に対する意識を高め、正しい知識のもとに対策を実践し予防に努めたい。

【利用者状況】

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用（延）	517	534	541	541	535	544	527	535	512	455	366	496
平均（日）	20.6	19.7	20.8	20.8	19.8	20.9	20.2	20.5	19.6	16.8	15.2	18.3

平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要介護度	2.2	2.2	2.3	2.4	2.4	2.4	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.35

[養護老人ホーム双葉]

平成29年度の養護老人ホーム双葉の事業計画において、リスクマネジメントに対する意識強化と実践や、利用者の自立支援(サービスの質の向上)及び地域・社会貢献(公益的活動)の推進と積極的参加、安定した運営のための利用者確保について目標に掲げ実現に向けて取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、リスクマネジメントに対する意識強化と実践

ノロウイルスマニュアルと服薬管理マニュアルの更新を行った。拘束(抑制)廃止マニュアルの周知徹底として、身体拘束に繋がるケースはなかったが、疑われるケースについては、その都度職員間での検討を行い、1月の内部研修で拘束廃止について周知徹底を図った。また、要望・苦情等に対する迅速かつ適切な対応及び情報開示のため、苦情解決第三者委員への報告会(4月・10月)を実施し、ご意見箱に投函された苦情1件(地域猫の件)について報告を行った。また、利用者から直接申出のあった苦情や要望等については、その都度の対応をおこなった。

2、利用者の自立支援(サービスの質の向上)

自立支援計画の評価については、議事録に記載した。また、ケース委員会終了後に迅速に議事録を作成し、計画書とともに他部署へ配布するようにしているが、議事録の作成が遅れることがあったため、来年度の反省点とする。また、小規模で多種多様な行事の実施及び利用者のニーズに合わせた個別的な支援の実施のため、選択行事(焼肉食べ放題・日帰り旅行・ピクニック・あまぎ健康ランド)は、事故なく実施することができた。

3、相談援助業務の強化

29年度において新規入所者数は少なかったが、そのなかでも関係機関と連携を取りスムーズに受け入れを行うことができた。死亡退所とともに、入院後日常生活動作の低下による退所も多かったが、転院の際などの事務引き継ぎを確実に行うことで、利用者や家族が困らないよう配慮できた。また、緊急保護入所の方が次の施設に入所されるまでの間、関係機関と連絡を取りながら様々な援助を行うことができた。来年度は生活相談員マニュアルの更新と業務分掌の見直しを行う。

4、地域・社会貢献(公益的活動)の推進と積極的参加

今まで実施してきた地域活動を継続し、新たに地域住民とともに行う活動への参加として、年2回のクリーンデーに利用者とともに参加することができた。緊急保護、短期入所で年間13名の方の受け入れを行った。また、地域の生活困窮者に対する支援としては、今年度の実績としてはないため、来年度はケアマネや太宰府市社協と連携を取り支援を行っていく。

5、利用者確保(安定した運営)

措置機関等には、その都度アプローチを行っており、病院からの問い合わせもあっているが、市町村の判断で入所には繋がっていないのが現状である。そのため、5月11日に長崎県壱岐市、6月1日には福岡市とその近郊の市町村への挨拶回りを実施した。

【利用者状況】

①入・退所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所数	1	0	1	1	1	1	0	1	0	0	1	1	8
退所数	1	0	2	0	2	1	3	1	2	0	0	1	13
月末在所	130	130	130	129	130	129	129	126	126	124	125	125	127.8
稼働率	86.7	86.7	86.7	86	86.7	86	86	84	84	82.7	83.4	83.4	85.2

【 訪問介護事業所 ホームヘルプステーション ふたば 】

平成29年度における訪問介護事業所 ホームヘルプステーションふたばの主な事業方針・目標は、専門職としての資質向上に努め、リスクマネジメントに対する取り組みを掲げ最善の努力を行ったところであり、事業の取り組み等については次のとおり報告する。

1、専門職としての資質向上に努める

各団体等の研修会へ参加し専門性を高めることができた。また、サービスの統一を目的として、各種マニュアルの見直し及びサービス手順書の作成を実施した。

2、リスクマネジメントに対する取り組み

各施設での対応一覧を作成し、感染症マニュアルに追加したが、在宅利用者に関しては罹患者が発生しなかったため、発生時にケアマネや家族と相談し、その都度対応することとした。

【平成29年度の利用状況】

① 登録者人数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者 (実人数)	(支援)	13	11	13	13	14	15	18	18	18	17	17	185
	(介護)	59	60	61	59	58	60	59	54	54	55	56	690
	(計)	72	71	74	72	72	75	77	73	72	72	73	875

② サービス提供延べ数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス 提供数	(生活)	390	418	419	393	200	390	405	170	391	387	359	4,325
	(身体)	191	227	276	242	222	214	209	189	205	238	243	2,684
	(計)	581	645	695	635	422	604	614	359	596	625	602	7,009

[特別養護老人ホームなの国・短期入所]

平成29年度の特別養護老人ホームなの国の事業計画において、相談援助業務の強化、安定した利用実績の確保やベッド稼働率の向上、地域福祉への貢献、新人職員教育、安心・安全な暮らしの実践。また、ショートステイなのくについては、ベッド稼働率の向上・職員資質の向上、ケアプランに基づくサービス実績とモニタリングを事業目標として掲げ取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、安定した利用実績の維持

入退居における円滑な調整を行い、年間を通してベッド稼働率を維持するため、入居待機者の面談調整を早めに行い、情報収集に努めたが、スムーズな受け入れに至らないケースもあった。年間を通して入院者数及び入院期間の長期化により安定した稼働率には至らなかった。また、近隣(早良区・城南区含む)の地域包括支援センターへは、施設パンフレットや料金案内を送付しており、併せて協力医療機関の地域連携室へ施設機能や申込みの状況説明を行うと共に、空床状況の問い合わせ時には、短期入所からの利用が可能である旨を踏まえて案内を行っている。

2、相談援助業務の強化

その人らしい生活の継続に向けた面接やアセスメントを行い、個別ケアを重視した入居の受け入れを行うなかで、新規利用者の入居時にはスムーズにサービス計画書の立案に繋がられるよう、入居事前面談において、これまでの暮らしの環境や生活リズムの情報を収集し他部署に伝達している。また、入居者に個性や心身の状況に応じた生活の快適性・利便性・安全性を追求したが、ユニットの環境整備や衛生管理にはユニット間のばらつきや不備が多く見られたため、今後はご利用者・ご家族からの指摘の前に改善策を取り、ケアの質の高めていく必要がある。

3、地域福祉への貢献

今年度も可能な限り学生やボランティアについては積極的な受け入れ対応を行った。また、近隣地域で開催された餅つきやバザー、十郎川清掃等の公民館や地区の行事に積極的に参加した。

4、新人職員教育

プリセプター・プリセプティー制度を用い3か月を目安に指導にあたったが、プリセプターシップについては、不十分であり全職員へ浸透するまでには至らなかった。

5、安心・安全な暮らしの実践

5S活動の推進を図っていたが、担当制の意識が低く居室の整理整頓及び清掃など十分に実施できていない箇所が目立ったが、他職種やユニット推進委員会連携のもと少しずつではあるが、定着しつつある。

6、ケアプランに基づくサービス実施とモニタリング

ケアプランのサービス実施状況については、日々の記録が実施できている。また、初回利用の利用者については、サービス実施の他に個別対応事項の検討を行い、利用頻度の少ない利用者へは、事前に状況を把握し必要時はケアプランに立案し対応を職員へ周知徹底した。

【特養利用者状況】

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入居数	4	1	2	1	0	4	2	2	2	3	3	1	25
退居数	2	3	0	1	3	3	3	2	2	2	1	1	23
月末在所	76	77	72	70	71	69	69	70	72	73	72	76	867
稼働率	93.7	93.9	94.2	85.7	90	86.1	83.4	87.4	90.4	92.4	90.4	95.8	90.2

【短期利用者状況】

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用（延）	413	387	376	369	423	448	448	486	453	474	407	489	5173
日平均数	13.8	12.5	12.5	11.9	13.6	14.9	14.4	16.2	14.6	15.3	14.5	15.8	14.17
稼働率	68.8	62.4	62.6	59.5	68.2	74.6	72.2	81	73	76	72.6	78.8	70.8

【デイサービスセンターなのくに】

平成29年度におけるデイサービスセンターなのくにの主な事業方針・目標は、サービスの質の向上及び改善と新規利用者の確保及び感染防止に努めること。総合事業と生活支援サービスの充実を図ることを事業目標として掲げ取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、サービスの質の向上及び改善に努める

ケアプランに基づいた通所計画書を作成し、一定期間の評価を行うなかで自立支援に向けたサービスが提供できた。前期は急な新規利用者の増加によって職員の不足が続き、現場向上に注力したことで書類の作成が遅れることもあったが、後期に職員へ業務分担を行ったことで、効率よく業務にあたることができた。また、施設内の研修には、スタッフ全員出席し、特に接遇面の研修に注力することで、専門職としての意識を高めることに繋がった。更に施設外では「NISHI367 カフェ」や「西ブロックデイサービス会議」「認知症新人研修」等に出席し、そこで学んだ内容をデイサービス会議等でフィードバックし職員の知識向上に努めることができた。

2、新規利用者の確保

各行政機関や居宅支援事業所、近隣の福祉サービス、民生委員に対し広報・営業活動を行うなかで、新規利用者の確保にも繋がり新規利用の確保に結び付いた。また、体験利用の場合、事前にケアマネージャーや、家族及び体験利用者から情報を得て、その日のデイサービスの行事は、その方のニーズに沿った過ごし方ができるように配慮した。更には、特色あるデイサービスの運営を目指し、事業所内の家具やテーブル、椅子等の配置換えを行い「静」と「動」の空間を創った。それにより、様々なレクリエーション活動を行えるようになり、少人数でも対応できるようになった。小規模事業所らしい特色あるデイサービスの運営を目指し、他事業所との差別化を図るうえで利用者に寄り添った介護を目標に、職員一人一人が細かなケアを実践することができた。併せてヘルパーステーション・ショートステイという在宅サービスが同一敷地に建っていることで、他事業所との連携を図り利用に繋がったケースもあった。

3、感染防止に努める

感染症の内部研修に参加することで、スタッフの感染症対策に対する意識向上に繋がった。また、利用者には来所時や昼食前等に必ず手洗い・嗽を行っていただいている。また、職員については11月～3月の期間マスクを装着し、職員の家族に感染者がいた場合は出勤停止を行い施設内の感染防止に努めた。

4、総合事業と生活支援サービスの充実を図る

支援する側とされる側という画一的な関係性ではなく、サービスを利用しながら、地域との繋がりを継続できる支援にするため、地域包括支援センターとの情報共有を行い、担当者会議にて各利用者に沿った支援方法を提案した。

【利用者状況】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用（延）	359	368	355	350	344	326	365	343	327	322	300	362
平均（日）	10.8	10.5	11.6	13.2	12	11.7	12.4	12.2	12.4	11.9	12.9	13.5

平均 要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	1.5	1.5	1.6	1.5	1.5	1.7	1.7	1.8	1.7	1.7	1.7	1.8	1.69

[ヘルパーステーションなのくに]

平成29年度におけるヘルパーステーションなのくにの主な事業方針・目標は、在宅で自立した生活が継続でき信頼される事業所を目指すなかで、専門技能の研鑽を図り、利用者が満足できる在宅生活の支援を行う。また、リスクマネジメント・苦情解決に対する取り組み及び執務環境の整備。更には総合事業サービスの受け入れを事業目標として掲げ取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、利用者が在宅で自立した生活が継続でき、信頼される事業所を目指す

ケアプランに沿った訪問介護計画書及び手順書を作成し、定期的に見直しを行いサービスの提供ができた。また、サービス提供、定期訪問時等に相談援助を行うことで、更に信頼関係が深まった。サービスを実施するなかで、課題等を抽出し、ケアマネージャーに対して情報提供・共有及び適切な提案ができ早期な課題解決に至った。また、個人情報の保護については、定期的な訪問介護会議や研修にて周知し遵守できた。

2、専門技能の研鑽を図り、利用者が満足できる在宅生活の支援を行う

職員の入退職と利用者増に伴い、各種研修会への参加は難しく、内部研修のみにとどまった。また、年1回の利用者満足調査を実施し、統計・分析を行い、期待や要望を的確にとらえ満足する自立した生活の実現に努めた。また、利用者へのより良いサービスの提供に繋げるために、居宅支援事業所・地域包括支援センター・医療機関・介護サービス事業者との情報交換及び共有に努めた。月末・月初めに利用者のサービス状況など詳細を報告書にて提出し、必要に応じて担当ケアマネージャーや関係事業所へアドバイスを求め対応を再確認することで、利用者の心身の状態に即した関わりが持つことができた。

3、執務環境整備

報連相の徹底を図り、日々変化する利用者の健康状態等を全訪問介護員が把握できるように努めるため、連絡ノートを活用し漏れなく情報の共有ができた。また、日々の業務にてサービスの取り扱い及び月末から翌10日までの介護報酬請求等を適正に確認し運営ができた。今後も適正な運営ができるよう継続して行っていく。

4、総合事業サービスの受け入れ

総合事業について、29年度の依頼はなかった。今後も近隣の動向を把握し積極的に受け入れ衣を行っていく。

① 登録者人数

区分/月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者 (実人数)	(支援)	6	7	8	8	8	8	12	14	16	14	15	16	132
	(介護)	18	17	17	16	17	15	13	13	12	13	13	14	178
	(計)	24	24	25	24	25	23	25	27	28	27	28	30	310

② サービス提供延べ数

区分/月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス 提供数	(生活)	77	68	62	68	75	69	56	49	52	60	51	62	749
	(身体)	187	209	198	205	233	194	213	228	224	218	194	228	2,531
	(計)	264	277	260	273	308	263	269	277	276	278	245	290	3,280

【介護老人保健施設若杉の里】

平成29年度の介護老人保健施設若杉の里の事業計画において、利用者の個別性を活かした生活が構築できるように側面から支援すること。また、利用者個別性を理解し、個々の安全及び安楽な生活を保証し、ケアプランをベースとしたケア実践や看取りケアの充実を図ること。更には施設全体でリスクマネジメントの必要性・重要性を認識しリスク防止体制の確立に向けて取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、利用者の個別性を活かした生活が構築できるように側面から支援する。

入所面談については、心身状況の把握と共に、これまでの生活スタイル、環境等の把握に努め、それぞれの個別性を理解することに努めた。また、様々な角度より把握するために、看護師、リハビリ、相談員の3者での入所前面談が実施できるよう調整を図っていたが、必ずしも実施できない時もあった。入所前面談では心身状況の把握と共にこれまでの生活スタイルや環境等の把握に努め個別性を理解するなかで、それらの情報を正確に現場スタッフに伝達し、入所後も個々の生活スタイルや家族も含めた周囲の環境を感じ取れるよう努めることができた。また、表面的なニーズだけではなく、潜在化しているニーズを引き出すことが出来るよう意識的な関わりに努めた。更には、ご面会の際などに意識的に声掛けを行い、気軽に要望等を話して頂ける関係や雰囲気作りに努めることができた。また、面談等で受けた苦情や要望については、その都度現場責任者へ報告し各職種間との協力体制を構築し迅速な対応を行うなかで、その後の対応についても随時確認するうえで、必要時には介入に努めてきた。

2、コスト意識を高め利用者確保に努める

入所待機者について定期的に受入れ状況の確認を行い、待機状況をリアルタイムで把握するなかで、他医療機関・事業所のソーシャルワーカー等へ空床状況を知らせる等の対応を行い、空床期間の短縮に努めてきた。特に入所面談、面接、契約日時等については、緊急性が高いケースも多いと思われるため、受け入れるまでの手続き等について施設内での調整も必要であった。

3、利用者個別性を理解し、個々の安全・安楽な生活を保証する

事件事例のアセスメント能力を高め、原因追究姿勢を堅持するよう努めたが、情報収集からアセスメントのプロセスが曖昧であった。本人要因から防げない事故が存在することも事実ではあるが、未然に防ぐことのできる事故もあるため、ケースごとに妥協を許さず、高い意識を持ち原因特定から対策立案までに臨む。

4、個別性を活かした訓練に重点を置き、家庭復帰を目指す。

3カ月毎の個別評価と個別プログラムの見直しを実施することで、個別性を活かしたプログラムと訓練指導ができたと思われる。また、ケアカンファレンスなどに積極的に参加し、医師・他職種・ご家族との情報共有を図る中で、利用者・ご家族の意向を極力取り入れ、家庭復帰へ向けた実施計画の作成を行うことができた。

5、ケアプランをベースとしたケアの実践及び看取りケアの充実を図る

終末期段階における治療方針の理解と情報共有のため、状態悪化の段階で医師の見解を把握し、ご家族とのインフォーム場面を設定した。また、面会の少ないご家族に対しては、

連絡時間の考慮やキーパーソン以外のご家族の協力等、積極的にアプローチするなかで、29年度については、18事例の看取りを行った。また、OJTとリンクしたOFF-JTの検討を行ってきたが、感染事故防止や身体拘束、虐待防止とのテーマでは、事例及び演習を取り入れ介護実践に反映されたと考える。新人教育は定着の感があるが、人材育成を目的としたリーダー研修では課題も多く感じられた。

7、感染防止・衛生管理

厨房職員への毎月の検便検査項目にノロウイルス検査を追加し、日ごろからの体調管理・衛生管理を強化した。また、循環風呂浴槽掃除・レジオネラ菌検査。受水槽清掃・クリプトスポリジウム検査・厨房を含む全館消毒を実施した。

8、防災対策

①併設施設との合同訓練（避難・消火・通報訓練）を2回実施した。

1回目・・・平成29年6月10日（土）（夜間想定訓練）

2回目・・・平成29年12月9日（土）（昼間想定訓練）

②防災設備点検

1回目・・・平成29年6月6日7日（粕屋南部消防署報告）

2回目・・・平成29年12月4日5日（粕屋南部消防署報告）

③防火対象物点検・平成29年6月7日（粕屋南部消防署報告）

④消防署立入検査・平成29年3月8日

⑤風水害防災訓練・平成30年2月28日（利用者9名・職員18名参加）

⑥受電設備点検

毎月1回の点検及び年1回の法令点検を実施。

【利用者状況】

① 退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所者	3	0	1	2	5	1	3	4	2	4	3	4	32
短期入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者	3	0	2	2	3	0	3	5	6	4	2	3	33
月末在籍者	86	86	85	85	87	88	88	87	83	83	84	85	
稼働率	84.9	86	85	86.4	85.5	87.4	88.1	86.5	85.1	82.8	83.6	85.3	85.6

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	14	14	14	13	15	13	13	14	12	12	10	10
要介護2	19	19	19	19	18	18	15	12	14	13	16	16
要介護3	16	14	14	14	15	18	17	16	14	16	18	18
要介護4	16	17	16	16	17	17	19	21	20	21	20	19
要介護5	21	22	22	23	22	22	24	24	23	21	21	22
合計	86	86	85	85	87	88	88	87	83	83	85	85
平均要介護度	3.13	3.16	3.15	3.2	3.15	3.19	3.3	3.33	3.34	3.31	3.31	3.32

公益事業

[居宅介護事業所 ケアプランセンターふたば]

平成 29 年度中における居宅介護支援事業所ケアプランセンターふたばの主な事業目標としては、介護予防・日常生活支援総合事業の理解と推進、介護支援専門員としての資質向上と地域活動への参加。更には特定事業所としての法令を遵守し健全な十行書運営を目指すを目標として掲げ以下のとおり努力したところである。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、介護予防・日常生活支援総合事業の理解と推進

在宅医療や福祉サービス、NPO法人、地域住民の協力体制の確保について、シルバー人材センターは、太宰府市地域包括支援センター主導でのみ利用している状況である。また、総合事業を撤退した事業所もあり、独自サービスの新しい展開は見受けられない。そのため、居宅支援事業所だけでは、協力体制の確保が難しく対応できなかった。平成 30 年度は、総合事業がどれだけ浸透できるのかを見極めていきたい。

2、介護支援専門員としての資質向上と地域活動への参加

外部研修への積極的な参加ができていないのが現状であるため、自己研鑽への意識が高まるように次年度は努めていく。また、介護保険法改正に合わせて、情報の収集はできていたと思うが、個人レベルでの自己研鑽は十分とはいえなかった。地域活動への参加としては、来年度よりボトルキャップなどの回収協力で、太宰府市社協との関わりをもっていく。

3、特定事業所としての法令を遵守し健全な事業所運営を目指す

居宅支援事業所としては、特に問題なく介護保険法の順守はできた。次年度は、市町村に指定権限が移ることもあり、さらに厳しい状況となるため、書類等に不備がないように自己チェック体制の構築を図っていく。

○ 平成 29 年度の利用者状況及び研修実績等については、下表のとおり報告する。

①平成28年度利用者登録者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護5	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	30	2.5
要介護4	6	7	7	7	7	7	4	4	6	6	6	5	72	6.0
要介護3	9	10	8	8	7	7	10	10	11	12	12	14	118	9.8
要介護2	20	22	22	22	23	23	24	24	23	22	22	3	270	22.5
要介護1	42	37	35	35	37	38	35	35	33	33	34	31	425	35.4
要介護 (合計)	79	78	75	75	77	78	76	76	75	75	76	55	915	76.3
要支援2	13	11	12	12	12	12	13	13	14	15	16	16	159	13.3
要支援1	10	9	8	9	8	9	10	11	9	11	11	10	115	9.6
要支援 (合計)	23	20	20	21	20	21	23	24	23	26	27	26	274	22.8
総合計	102	98	95	96	97	99	99	100	98	101	103	81	1,189	99.1

【ケアプランセンターなのくに】

平成29年度におけるケアプランセンターなのくにの主な事業方針・目標は、自立支援に資するケアマネジメントの実践や地域で信頼され選ばれる事業所の確立、介護支援専門員としての資質向上、研鑽を目指すこと目標として掲げ取組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、自立支援に資するケアマネジメントの実践

訪問時や日々の関わりのなかで、利用者・家族との接点を積極的に作り、会話を重ねることで信頼関係を築いていくことができた。ICFの視点に基づき本人・ご家族の強みに焦点を当てた丁寧なアセスメントを意識し生活全般を捉え、本人・家族が抱える課題を把握し、自立支援を支えるケアプランの作成を行った。

2、地域で信頼され選ばれる事業所の確立

地域包括主催の勉強会や交流会への参加、連携室及びサービス事業所への訪問を行うことで、お互いを知る機会を作ることができ、事業所間連携のきっかけに繋がった。また、交流会や地域行事等への参加を行い、顔が見る関係づくりを行った。地域の社会資源の把握及び活用を行うために、フォーマルな社会資源の把握や活用はできたが、インフォーマルな部分においては今後課題が残る形となった。

3、介護支援専門員としての資質向上・研鑽

内部・外部研修や西区ケアマネ連絡会に積極的に参加するなかで、他事業所とのケアマネジャーとの情報交換に繋がった。また、インターネットや学会誌、シルバー新聞、文献等にて自己学習を行い、新しい情報や介護保険の動向把握・相談援助職としてのスキルアップに努めた。また、西区ケアマネ連絡会、Cブロック研修会、民生員との交流会、多職種連携研修会、地域ケアを考える会、4.7ネット研修会への参加を行った。

【ケアプラン登録者数】

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4
要介護	33	32	32	32	33	31	31	29	28	31	31	30
登録者(計)	36	34	34	34	35	33	34	32	31	34	35	34

【サービス付き高齢者向け住宅まほろばの里なの国】

平成29年度のサービス付き高齢者向け住宅まほろばの里なの国の事業計画において、安定した入居実績の確保や安心信頼を得られるサービスの充実、地域との連携強化の実現に向けて取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

1、安定した入居実績の確保

積極的な広報活動を計画的に実施でき、40居室44名の入居を確保でき、平均稼働率も97.6%を維持することができた。また、入院や退居の要因を未然防止できるよう、生活相談員や看護師を中心としたバイタル測定や日々の健康管理の徹底、主治医との連携を強化することで、体調不良の早期発見・早期受診対応が行えた。

2、安心・信頼を得られるサービスの実施

年2回の運営懇談会10月と3月に開催した。開設後計6回の懇談会を重ねるなかで、入居者からのニーズを基にサービス内容を計画的に見直すことが行えるようになった。また、戸別訪問を積極的に行い、苦情発生の未然防止に努め、結果として大きな苦情もなかった。また、訪問時の相談内容については、専用のファイルを作成し、情報の共有化を図った。

看護職員による医療的対応の強化として、医療的情報を更新及び書式の見直しを実施し、緊急時に必要な情報を提供する体制を強化できた。また、午後活動の充実を図り「体操」「習字」「手芸」「おやつ作り」「園芸」等のレパートリーを増やした。

3、地域との連携強化

近隣の公民館が主催する体操教室や講座・講演等にご入居者が参加できるよう支援を行った。また、地域交流スペースの活用として、公民館行事やケアマネ会議等のネットワーク会議、地域ダンス教室等、地域交流スペースの使用が地域住民の方に定着しつつある。

【入退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	0	1	0	0	1	2	0	1	0	1	1	1	8
退居者数	0	0	1	1	1	0	0	2	1	0	0	2	8
月末在居者	43	42	41	42	40	43	42	42	41	41	43	40	500
稼働率	97.5	97.6	99.7	97.5	96.1	97.7	100	95.3	95.7	96	99.4	99.2	97.6

【月別要介護度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立	7	8	7	7	7	8	8	9	8	8	7	7	91
要支援1	7	6	7	7	8	9	9	9	11	11	13	13	110
要支援2	44	5	4	5	4	5	7	7	6	6	6	5	64
要介護1	20	19	20	19	18	16	13	12	11	11	11	9	179
要介護2	46	4	3	3	3	4	4	4	4	5	5	7	50
要介護3	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2	14
要介護4	1	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	9
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均要介護度	1.28	1.4	1.36	1.26	1.35	1.41	1.55	1.44	1.47	1.5	1.5	1.61	1.43

[なの国ケアスクール]

平成29年度のなの国ケアスクールの事業計画において、事業の安定的継続、受講生の確保及び研修内容の充実。また人材育成と確保や地域貢献の推進と情報公開の実現に向けて取り組んできた。

それらのことを踏まえ、具体的計画に基づく事業の実施について、次のとおり報告する。

「開校スケジュール」

- ① 実施場所 福岡県福岡市西区拾六町団地2番18号（特別養護老人ホームなの国内）
- ② 開講予定 平成29年5月 介護職員初任者研修（通信課程） 定員20名
平成29年7月 介護福祉士実務者研修（通信課程） 定員30名

1、事業の安定的継続

福岡市・糸島氏を中心に積極的な広報活動を行った。「介護職員初任者研修」については、5名の受講であったが、「介護福祉士実務者研修」では、21名の受講生を確保できた。教育訓練給付制度講座の指定については、介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修ともに平成30年4月より指定を受けることができた。

2、研修内容の充実

担当講師との振り返り会議や研修（成人教育学等、講師スキルの向上研修及び講座内容の見直し）を行った。それに伴い、補助テキストの修正や映像教材の追加を実施した。また、介護福祉士実務者研修については、試験対策講座や予想問題等を無料で行い好評であった。介護福祉士国家試験受験者については、1名を除き受講者全員が合格している。

3、地域貢献の推進

今年の実受講生については、内部職員または、他施設のみで、地域住民等からの受講はなかった。介護福祉士実務者研修では、地域住民等からの受講問い合わせがあったものの、専門職のみで定員を満了してしまつたため、受講にまでは繋がらなかった。

4、人材育成と人材確保

法人内職員7名が当ケアスクールを受講し有資格者となった。また、養成講座講師を担当する13名の内部職員に対し講義を行うために必要な知識・技術についてスキルアップさせることができた。